

群 教 セ	G02 - 05
	令5.284集
	地理歴史

現代的な諸課題の解決を目指し、 自ら学びに向かうことのできる生徒の育成 ——パフォーマンス課題の設定とOPPシートの工夫を通して——

特別研修員 八木 祐亮

I 研究テーマ設定の理由

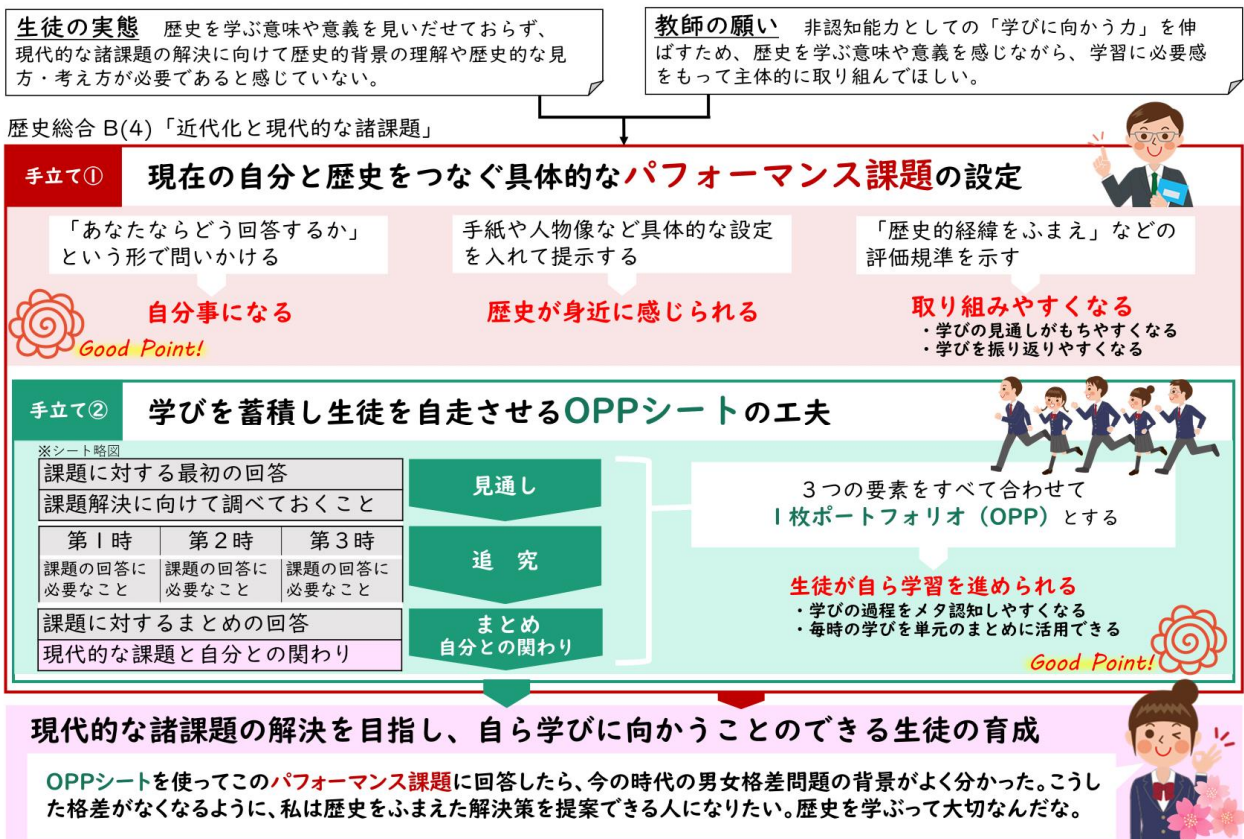
令和5年度県立学校教育指導の重点における教育委員会運営方針の8つの基本施策では2(1)「時代を切り拓く力の育成」において、「自分の頭で未来を考え、予測困難な時代を生き抜く力を育成するため、学力のような数値化できる力（認知能力）のみならず、非認知能力の育成」が重要であることが示されている。こうした非認知能力の一つである「学びに向かう力」は、現代的な諸課題を解決し予測困難な時代を生き抜くために必要不可欠な資質・能力である。

研究協力校（以下、協力校）は素直な生徒が多く、教師の指示に対してはよく取り組む一方で、授業において自ら進んで学んだり、学びを自分や社会へ生かそうとしたりすることに課題が見られる。とりわけ歴史の学習においては学習内容を自分事とすることが難しく、歴史を学ぶ意義や意味を見いだせない生徒や、現代的な諸課題の解決のために歴史的背景に対する理解や歴史的な見方・考え方が必要であると感じられない生徒も少なからず存在する。

そこで、単元全体の学習において現代的な諸課題に関わる具体的なパフォーマンス課題を提示し、なおかつ生徒が課題解決に向かって自走できる仕組みを構築することで、生徒が歴史の意味や意義、親近感をもったり、課題解決に向けた必要感をもったりしながら学習に取り組めると考えた。こうした手立てが生徒の「学びに向かう力」を高めるために有効であると考え、上記のとおり主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

生徒が自ら学びに向かう力を高められるよう、次のような手立てを用いて単元を構成した。

手立て1 現在の自分と歴史をつなぐ具体的なパフォーマンス課題の設定

手立て2 学びを蓄積し生徒を自走させるOPPシートの工夫

手立て1では、現代的な諸課題を題材とし、そこから歴史的背景を捉えさせるPBL型（課題解決型）のパフォーマンス課題を設定する。課題には「現在の自分と歴史上の人物との対話」や「歴史の現場についての報道」など、現在の自分と歴史をつなぐ具体的な設定を作る。これによって生徒は課題に対して親近感や必要感をもち、学習内容を自分と関わらせて歴史の意味や意義を感じながら学習に取り組める。また、設定の中には評価規準を示す表現も取り入れる。これによって生徒は課題解決に向けて見通しをもったり、毎時間の学びを振り返ったりすることができる。

手立て2では、Googleスプレッドシートを活用して、毎時間の学びを蓄積できるOPPシート（1枚ポートフォリオシート）を作成する。OPPシートには①単元の見通し、②毎時の振り返り、③課題へのまとめの回答と自分との関わり、の三つの要素を全て記入できるようにする。これによって生徒が単元全体を通して自分自身の学びをメタ認知し、課題の解決に向かって自走しやすくなる。また生徒のOPPシートの一部は、スプレッドシートの関数によって教師側のシートに反映され、授業中に作成した生徒の回答が一覧として即座に黒板に投影される。これによって、直接の対話が難しい生徒が他の生徒の意見や回答を参考としたり、評価規準に即して回答できている生徒を全体に共有したりすることもできる。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 具体的なパフォーマンス課題を設定したことで、見通しをもつ場面において生徒が課題に回答するため自ら必要な問いを立てることができていた。また、追究する場面においてもそれらの問いを主体的に追究しようとする姿が見られた。単元終了後、生徒に対して「このような課題は、あなたが自分から進んで学習に取り組む上でよかったですか。」という質問をしたところ、96名中72名（75%）の生徒が肯定的（「とてもそう思う」「そう思う」）に回答した。また、「歴史を現代の課題と結び付けて考える今回のような学び方によって、歴史を学ぶ意味や意義を感じることはできましたか。」という質問に対しては78名（81%）が肯定的に回答した。
- 課題をまとめる場面において、生徒はOPPシート内の自己の記述を何度も振り返りながらまとめの回答を作成していた。単元の冒頭において歴史的背景をふまえて回答を書いた生徒は10%に満たなかったが、まとめの回答では歴史的背景や歴史的な見方・考え方を活用して回答できた生徒が80%以上にのぼったことから、OPPシートの有用性を確認できた。
- 教師がスプレッドシートの関数を用いて生徒の「歴史的背景に対する理解や歴史的な見方・考え方をふまえた記述」を授業中に一覧にして投影し紹介したことで、生徒同士の回答の交流が促進されるとともに、生徒の回答の具体的なよさを全体に共有し、称賛することができた。

2 課題

- 単元のまとめで「現代的な諸課題に自分はどのように関わっていくか」を考える場面において、多くの生徒が抽象的・一般的な回答に留まった。歴史的背景への理解だけでなく、現代的な諸課題そのものの現況について中学校の公民的分野を振り返らせるなどの手立てを取り入れることが必要であった。そうすることで、生徒は自分のとるべき具体的な行動や今後あるべき姿を記述できるようになるのではないかと予想している。

実践例

1 単元名 「近代化と現代的な諸課題」（2年次・2学期）

2 本単元について

本単元は必修科目「歴史総合」の「B近代化と私たち」（4）に位置し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史について学習する単元である。現代には近代化の中で形成された様々な社会課題が存在し、「持続可能な開発目標（SDGs）」も示すとおり、それらの課題の解決が世界的に目指されているところである。本単元はこうした様々な社会課題について比較的自由度の高い主題が設定できるため、生徒自ら歴史的な見方・考え方を働かせ、現代的な諸課題の形成について主体的に考察することができる単元を構想したい。またそれらを通して、生徒が近代化の歴史と現代的な諸課題との関わりについての理解を深めることができるようにしたい。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1) 現代的な諸課題、特に男女間格差の問題（「ジェンダー問題」）の形成に関わる近代化の歴史を理解する。（知識及び技能） (2) 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、ジェンダー問題について平等・格差の観点から多面的・多角的に考察し、表現する。（思考力、判断力、表現力等） (3) ジェンダー問題とその形成に関わる近代化の歴史について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする。（学びに向かう力、人間性等）	
評価 規 準	(1) 現代的な諸課題、特に男女間格差の問題（「ジェンダー問題」）の形成に関わる近代化の歴史を理解している。（知識・技能） (2) 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、ジェンダー問題について平等・格差の観点から多面的・多角的に考察し、表現している。（思考・判断・表現） (3) ジェンダー問題とその形成に関わる近代化の歴史について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・単元の課題に対する現段階での自分なりの回答と課題解決のための見通し（調べておくべきこと・理解しておくべきことなど）をまとめる。 【単元を貫く学習課題】 19世紀イギリスの男性資本家から受け取った手紙に回答せよ！
追究する	第2・3時	・イギリスの中流家庭における性別役割を示す歴史資料（当時の文献や絵画など）、ジェンダー平等に向けた人々の努力を示す資料（「女性の権利宣言」など）を読み取り、歴史的な見方・考え方を働かせて考察する。
	第4時	・前時までの資料と日本における女性の権利向上に関わる歴史資料（津田梅子の言葉、雑誌「青鞥」など）を、歴史的な見方・考え方を働かせて考察する。
まとめる	第5時	・前時までの考察を踏まえ、単元の課題に対する自分なりの回答を表現して他者と交流する。また、学習した歴史的な事象が自分自身にもつ意味について考え表現する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全5時間計画の第5時に当たる。生徒は前時までに「近代化の中でなぜ男女間格差が生まれたのか」「女性はどのような権利において男性と格差があったのか」「19世紀イギリスの理想の女性像とは何か」「女性の権利向上に向けてどのような運動が展開したのか」「世界中の国民国家はそう

した女性運動をどのように受け止めたのか」など、それぞれが立てたいいくつかの問いを追究しており、それらを踏まえて、19世紀イギリス人男性資本家から受け取った手紙に対する回答を自分なりに作成している。本時はその回答を協働的な学習を通して歴史的背景をふまえて練り上げるとともに、現代的な諸課題であるジェンダー問題に対して自分がどのように関わっていくか考え、表現できるようにすることをねらいとしている。

手立てについて具体的な内容は、次のとおりである。

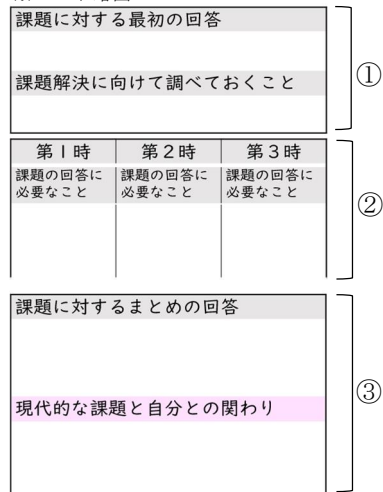
手立て1 現在の自分と歴史をつなぐ具体的なパフォーマンス課題の設定

生徒には単元の冒頭にて、本稿末尾資料のとおりのパフォーマンス課題を与えた。この課題は19世紀当時の典型的な「男女間格差を是認する考え」をもつ架空の男性を登場させ、「その人物から受け取った手紙に対する回答を作成する」と具体的に設定した。さらに文末では「歴史的な経緯をふまえ」「誠意をもって」など、評価規準を示す表現を取り入れている。生徒はこの課題の解決に向けて評価規準を参考に問いを立て、教師が提示した資料や自ら探し出した資料をもとに自ら追究を進め、男女間格差の生まれた背景、当時の女性観、それらを克服するための女性運動の展開など平等・格差に関わる問題の歴史的背景について理解を深めていくことができる。

手立て2 学びを蓄積し生徒を自走させるOPPシートの工夫

Googleスプレッドシートを活用し、毎時間の自身の学びを蓄積できるOPPシートを作成した。OPPシートには①単元の見通し（単元の課題に対する最初の回答、生徒自身が課題解決に向けて立てた問い＝調べておくこと）、②毎時の課題追究に対する振り返り、③課題へのまとめの回答と自分との関わり（この単元で得た知識及び技能・身に付いた能力や態度、それらを生かして自分はこのようにこの問題に関わっていきたいか、単元の追究を通して生まれた新たな疑問）、の三つの要素をすべて記入できるようにした。これによって生徒が単元全体をとおして自分自身の学びをメタ認知し、課題の解決に向かって自走しやすくなっている。実際のシートについては本稿末尾資料を参照されたい。

※シート略図



4 授業の実際

導入では前時までの活動を振り返らせた上で、以下の本時のめあてを提示した。

<課題>

男女平等を目指す現代人として男性資本家への回答を完成させよう。

(1) 意見交換を通して自分の回答を修正する場面

生徒は「手紙を出した男性側」と「現代人側」の役割を交換しながら手紙に対する回答を発表し合った。その際、作成した回答のよい点や改善点を互いに積極的に話し合う姿がよく見られた（図1）。

男性の手紙に見える女性労働に対する考え方について、生徒Aが「女性が働けないと決めつけてはいけない」とした回答を書いたところ、生徒Bはより説得力が増すように「当時の女性の中でもそう主張する人がいたことを書けばよいのではないか」とアドバイスしていた。このようにして、生徒Aは歴史的な見方・考え方をふまえて回答を作成することができた。



図1 互いの回答のよい点や改善点を話し合う生徒たち

教師はそれらの様子を見守りつつ、「近代化の中でなぜ男女間格差が生まれたのか」「女性の権利向上に向けて、いつどのような進歩があったのか」などの具体的な歴史的背景をふまえて回答を作成できている生徒や、歴史的な見方・考え方を取り入れた回答を作成できている生徒を取り上げ、スプレッドシートの関数（IMPORTRANGE関数）を用いて教師側のシートに一覧として反映させ、黒板に投影して全体に紹介し称賛した。

この活動後に生徒は再度自分の回答を修正し、単元冒頭の回答（表1 [A]）とも比較しながら最終的な回答（表1 [B]）をOPPシートに記入した。

(2) 現代的な諸課題に自分はどのように関わっていくか考え表現する場面

「この単元で学んだことは何か」「学んだことを生かして、自分自身はこの問題にどのように関わっていききたいか」と発問した。生徒はこの単元から学んだことをふまえ、今後の自分自身や世の中の在り方について対話しながら様々に考えを巡らせていた（表1 [C]）。

表1 ある生徒のOPPシート（抜粋）

[A]男は仕事・女は家事というのは法律で決まってるわけではないため、勝手に決めつけるのは違うと思います。女の人のことを思って言ってるのかも知れないけど、女の人でも働きたいと思っている人も多いと思うし、家事は本当に大変というのを知ったほうがよいと思います。

[B]あなたが生まれる前から、グージュという人が男女平等を目指していたり、あなたが生きているときには、それを求める人が多くなってきたりと、あなたがいう「男は仕事・女は家事」という意見とは違い、女の人には「働きたい」「人権を認めてほしい」と思っていた人も多かったのです。だけど、あなたの時代は工業化が起っていたことで都会に出ていく必要があって、女性が家事という考えだったのかもしれませんが。男が稼いで家庭を養う。女の人を大事にしているのはすごくよいことです。でも人それぞれ幸せの価値観は違い、それを決めつけるのは違うと思います。あなたがなくなったあと、19世紀に起こった第一次世界大戦で戦争に行ってしまった代わりに、女性が働くことになり女性が活躍し女性にも参政権が認められ始めました。その時代に参政権を求める女性が拡大し、国も参政権を認め始め今のような時代になっていたのです。

[C]（単元で学んだこと）過去と現代を比べて相違点もあったけれども現代が別に完璧でなく、様々な価値観に私たちもとらわれていることが分かりました。
（自分自身がどう関わっていききたいか）今でも性別役割意識は強く根付いているので、今回学んだ女性たちの権利や意見を忘れず、いろいろな価値観を受け入れそれに対応していくことが大切だと思います。

※シート略図

課題に対する最初の回答		
→		
課題解決に向けて調べておくこと		
第1時 課題の回答に必要なこと	第2時 課題の回答に必要なこと	第3時 課題の回答に必要なこと
課題に対するまとめの回答		
→		
現代的な課題と自分との関わり		
↑		

5 考察

単元の冒頭において歴史的背景をふまえて回答を書けた生徒は10%に満たなかったが、まとめでは上記のような歴史的背景や歴史的な見方・考え方を活用して回答できた生徒が80%以上にのぼった。事後にとったアンケートでも8割を超える生徒が主体的に課題を追究できたと回答しており、二つの手立ての有効性を確認することができた。

その一方、単元終末にて現代的な諸課題と自分との関わりを考える場面においては「いろいろな視点をもつことを大切にしたい」など、やや抽象的・一般的な回答に留まった記述が少なからず見られた。現代的な諸課題（本単元であればジェンダー問題）の現況について、生徒が事例などから具体的に捉えられるようにする手立てが必要である。例えば中学校公民的分野の学習を短時間でも生徒に振り返らせる、課題の設定に具体的な現在の状況を取り入れる、などの新たな手立てが考えられる。

今後の歴史総合の授業においても様々な課題を作成することでパフォーマンス課題を構造化・類型化し、より汎用性のある手法としていくことができると考えている。今後も生徒の学びに向かう力を高められる歴史学習を目指し、研鑽を重ねていきたい。

6 資料

(1) 本単元で生徒に提示した具体的なパフォーマンス課題

あなたは現代にやってきた19世紀半ばのイギリス中流家庭の男性（工場経営者：資本家）から怒りの手紙を受け取りました。手紙の内容は以下の通りです。

家で夫を支えなければならない妻が、この時代ではなぜこんなにも外で働いているのだ！？しかも、これでもまだ女性の社会進出が足りないなど言うてはないか…。

私が教えてやろう。妻が働きに出るといことは、夫の稼^{かせ}ぎが足りず、妻を養えないということだ。愛する妻を守り・養うべき夫の役割を果たしていないということだ。男たちは恥ずかしくないのか！？見ろ、女性が働きに出ているせいで、家事も満足にできていないではないか！子供もさみしそうにしているではないか！

…私の時代では、男は男・女は女の役割があった。その方が、男も女も幸せであるはずだ。…一体なぜ、こんな世界になってしまったのか？私たちの時代が間違っていたのか？私はそれが知りたい。納得できるように、きちんと話してくれ。

p.s. 高校生男子、君たちは将来、そんな男に絶対なつてはいけない！妻を守り養える、たくましい男になれ。女子、君たちは幸せになりたければ、きちんと男を見る目をもちなさい。女の幸福は妻として夫を支えながら、家庭で心穏やかに過ごすことだ。自分を養えない男と絶対結婚してはいけないよ！

あなたなら、この手紙に対してどう回答しますか？歴史的な経緯をふまえ、男女平等を目指す世の中に生きる現代人として誠意をもって回答してください。

(2) 本単元で使用したOPPシート（Googleスプレッドシートを使用）の様式

課題				
19世紀イギリスの男性資本家から受け取った手紙に回答せよ！				
課題に対する最初の回答				
課題解決に向けて調べておくこと・理解しておくこと等				
①時間目	②時間目	③時間目	④時間目 ※自宅用	⑤時間目 ※自宅用
課題の回答に必要なこと	課題の回答に必要なこと	課題の回答に必要なこと	課題の回答に必要なこと	課題の回答に必要なこと
単元の課題				
19世紀イギリスの男性資本家から受け取った手紙に回答せよ！				
課題に対するまとめの回答				
この課題の回答をつくることを通して得られた知識・理解や、身に付いた能力・態度は何か？				
単元の自己評価	この単元で学んだ現代的な課題に、自分は今後どのように関わっていきたいか。			
	この単元の学びをしたことで、さらに深く追究してみたいこと・疑問に思ったことは何か。			

※自己評価のA～Cは、A:単元全体でとてもよく理解できた(考えられた)。B:まあ理解できた(考えられた)。C:理解できなかった(考えられなかった)。

※Google スプレッドシートは、Google LLC の商標又は登録商標です。なお、本文中には ™ マーク、® マークは明記していません。